

平成29年5月15日発行

RIKKO SEKAI No.1074 力行世界 平成29年5月15日発行 (1)

2017年

5月号

年4回発行(1.4.7.10月号)

No.1074

(学法) 日本力行会

RIKKO SEKAI No.1074 力行世界 平成29年5月15日発行 (1)

R I K K O S E K A I



会館生スキー旅行 長野県軽井沢アサマ2000スキー場にて

創立1897年1月1日



目次

ブラジル力行会創立100周年

記念式典実施

及び訪伯団募集のお知らせ 2

ブラジル力行会の略史 3~4

夜間19期生の見た日本力行会 5

りっこう幼稚園だより 6~7

豆まき・音楽会

おもいで遠足・卒園式

会館生スキー旅行 8

力行会館新入館生

ウエルカムパーティ開催 9

剣道体験会 10

ブラジル研修生報告 11

平成29年度 幼稚園教育研修生

ブラジルより来日 11

会員だより 12

《ブラジル》訪日就労伯人が

再び増加 12

事務局だより 12

ブラジル力行会創立100周年記念式典実施 及び訪伯団募集のお知らせ

本年は当会の友好団体である「ブラジル力行会」の創立100年という記念すべき年となります。これに鑑み、ブラジル力行会では来る9月17日(日)ブラジル・サンパウロ市内にて創立100周年記念式典を執り行うこととなり、ここに式典詳細とブラジル力行会

の歴史について掲載すると共に、現地ブラジル力行会より一人でも多くの方々の式典参加とこれからのブラジル力行会の在り方について語り合うための交流を希望する旨の強い要望が寄せられています。当会としてもその趣旨に賛同、今後の日本とブラジルの力行

会の活動について幅広い意見交換と「力行精神」の再興を図るため、このスケジュールに合わせた訪問団を企画、参加者を募集いたします。なお、ご不明な点及び詳細については当会事務局まで御問い合わせ下さい。

ブラジル力行会創立100周年記念式典

趣旨：100年と言うのは永いようで短い、又、短いようで長い年月です。その間、会員の隆盛、衰退を見ました。そして新しい会員の途絶えた今、流れが変わり、当伯国から日本へ、との、人の動きの方が活発になっております。このような時に100周年を向え、過去を想い、今を想い、これからを考える良い機会にと、100周年記念式典を執り行いたく存じます。

日時：2017年9月17日

会場：ブラジル日本文化福祉協会

小講堂

Rua São Joaquim, 381

Liberdade Capital-SP

式次第：

9：00 受付開始

10：00

①式典はじめ－司会者開会を宣言、及び来賓紹介(壇上へ)
伯国力行会会長；駐サンパウロ日本国総領事
日本力行会理事長；ブラジル日本文化福祉協会会長

②物故者へ1分の黙祷

③国歌三唱(アラモニア学園生徒による)

ブラジル国歌；日本国歌

④力行奮闘の歌 1番、2番のみ、全員による。

⑤礼拝の部

賛美歌、講話、祈祷。

⑥式典の部：

6-1：挨拶・伯国力行会会長

6-2：来賓挨拶・総領事

・文教会長

・日本力行会

理事長

6-3：歴代伯国力行会会長への

感謝状贈呈(本人および遺族へ)

・第1代 井原恵作

・第2代 破魔六郎

・第3代 村上真一郎

・第4代 森 晋平

・第5代 山内安房

・第6代 林 寿雄

・第7代 永田 久

6-4：100周年記念誌発刊に際して

・編集委員長 古賀捷則

6-5：お祝いの言葉

・日本力行会代表

・伯国力行会パラナ支部代表

・アリアンサ村、弓場農場

代表

・アルモニア学園代表

6-6：祝電披露

12：00 食事 1階の食事会場移動
食前の挨拶及び乾杯

14：00 催し物 式典会場の小講堂移動

・琴と三味線－民謡

・弓場のバレエ団

・歌手 中平マリコさん

16：30 閉会

閉会の言葉 100周年委員会委員長 吉岡黎明



ブラジル力行会の略史

百周年記念誌編纂委員会 古賀捷則

その1

ブラジル力行会は、今年2017年で創立100周年を迎えます。その間、日本力行会の南米開拓講習所で、移住教養とキリスト教の教育を受けて、ブラジルへやって来た力行会会員は、戦前506人、戦後1294人、合計1800人にのぼります。キリスト教精神によってつくられた海外移住奨励の団体である力行会とは何か。ブラジル力行会の歴史に触れる前に、日本力行会の生い立ちについて述べてみましょう。

日本力行会は、1897年、キリスト教改革派教会の島貫兵太夫牧師が、地方から東京にやって来た貧しい苦学生の救済を目的に、自宅を解放して創設しました。この力行会の「力行」という言葉は、苦勞しながら学問をするという、中国の言葉「苦学力行」に由来すると述べています。

島貫牧師は、苦学生の独立自尊の念を養うため、いろいろな仕事を都合し、夜学へ通わせ、不足分は牧師を務める神田教会の報酬から補っていました。彼らを教導する牧師の人間的魅力によ

り、苦学生数は増えるばかりで、経済的に行き詰まってしまうのは明らかです。

そこで島貫牧師はアメリカでは苦学生の世話をどうしているかを調べるため現地へ行き、苦学生だけではなく一般の人たちにも、将来の可能性のある国であることを目のあたりにして、力行会のなかに渡米部を開設し、必要な英会話や教養を身につけさせて、青年たちを北米へ送り出すことに力を入れるようになりました。

このように、生涯を通じて「霊肉救済」事業に打ち込んだ島貫牧師の活動は、心の救済だけではなく、人々の生活、つまり肉の生活も支援しなければならないという考え方に立っています。

日本力行会はやがて海外事情に通じた渡米・移住促進団体として全国に知られるようになります。渡米促進事業にますます拍車がかかろうとしているとき、今度はアメリカで排日運動が次第に高まり、対米移民制限に関する協約である日米紳士協定が1908年2月に制定されました。

狭い日本から広い海外に進出しよう

とする若者の渡米熱は急速にさめ、海外移住への関心は南米へ向けられるようになります。こうして1908年の4月18日にブラジルへの最初の移民船「笠戸丸」が日本を出発、南米大陸への大量移民の時代が幕を開けることになりました。

そのころ、リオ・デ・ジャネイロには、すでに数人の力行会員が住んでいました。その中のひとり大島七郎会員は、イギリス船の船員になり、途中で船から落ちて、九死に一生を得て、1911年、リオに上陸した人です。

島貫会長は、大島会員をブラジルの日本力行会初代支部長に任命しましたが、大島会員は2年後にアメリカへ再移住したため、1906年にブラジルへ移住していた、鹿児島地裁裁判所判事の隈部三郎弁護士の長女・隈部光子会員を支部長に任命しました。

しかし、伯国支部としての活動の記録はまったく残されていないので、当時を、ブラジル力行会の歴史が始まる前の、神代の時代とも呼ばれています。

4月18日(火曜日) ニッケイ新聞

その2

1913年9月6日、島貫兵太夫初代力行会会長は、47歳の若さで病いに倒れ、渡米中であった永田稠氏が遺命により、翌年の1914年に二代会長に就任します。

6年ぶりに帰国した永田会長の前には、大きな難題が横たわっていました。それは大講堂建設による財政破綻と日本力行会の再建です。

「力行会は、単なる社会慈善団体ではなく、世界的視野を持つ移民教育の推進力になりたい」と呼びかける永田会長の周りには、新しい人脈が構築されていきます。

教育界に大きな影響力を持つ沢柳政太郎博士や新渡戸稲造博士を力行会の顧問に迎え、力行会は再び活気を取り戻し、永田会長は、海外移住事情に精通する第一人者となりました。

永田会長は、沢柳政太郎博士から、文部省の海外子女教育実情調査の推薦状をもらって、1920年3月初めてブラジルのイグアッペを訪れ、のちにアリ

アンサ移住地の先駆者といわれる永田稠・北原地価造・輪湖俊午郎の三氏がここに勢ぞろい。利益を目的とした移民会社に頼らない、自営農民のための移住地建設を目指すドラマが、ここから始まります。

サンパウロ市から北西に600km離れた現ミランドポリスの大原始林に、1千家族の日本人移住者が1万アルケル(1 alqueire = 2.42ha)を開拓するという壮大なドラマです。

それ以前は出稼ぎ移民が主流でしたが、永住目的のアリアンサ移住者のなかには、ピアノやバイオリン、テニスや野球道具、さらには天体望遠鏡まで担いでやってきた人もいました。

アリアンサは、武者小路実篤の「新しき村」建設を夢見た弓場勇農場、「芸術すること、祈ること、耕すこと」の農民バレー団ユバや、歌人・岩波菊治、俳人・佐藤念腹など多くの芸術家を生んだ、日系ブラジル文化の発祥の地としても知られています。

さて、ブラジル力行会の創立は1917

年となっていますが、これは、日本力行会が全国の支部長を決定した時に、隈部光子会員を伯国支部長と命名されていることがあとで分かり、戦後開かれたブラジル力行会の理事会で、1917年を創立記念の年に定められました。

実際には、隈部光子会員がブラジルに移住した1906年から力行会創立年の1917年までに、アリアンサ移住地建設の立役者・輪湖俊午郎氏と北原地価造氏、サンパウロ市コンデ街の本屋・遠藤常八郎氏、文教の前身・教育普及会会長で、日伯新聞の主事で終戦時に臣道連盟のテロの犠牲になった野村忠三郎氏など16人の会員が在住していました。

ブラジルへの力行会員の本格的な移住は、1920年頃からです。アメリカの排日運動を逃れてブラジルへの再移住者・井原恵作団長が率いるブラジル開拓組一行が着伯した1922年から、にわかにはブラジル力行会の活動が活発になってきました。

4月19日(水曜日) ニッケイ新聞

その3

北米の排日運動の高まりにより、在米日本人は朝鮮や満州への再移住に走る人々が増えますが、永田会長は彼らに南米への転住を勧め、井原氏のほか、輪湖俊午郎、加藤保松、野上豊、宮尾厚氏などがブラジルへ再移住しました。

サンジョゼ・ドス・カンボスに入植した井原氏は、会員の世話をしたり力行会の体制作りに献身的に働き、周囲の厚い信頼を得て、1923年から1955年まで32年にわたってブラジル力行会の会長を務めました。

戦前のブラジル力行会員は、アリアンサに最も多く、北パラナ、レジストロ、やがてサンパウロ市を中心とする集団が大きくなっていきます。

アリアンサには力行農園と渡辺農場の南米農業練習所が設置され、細川末男氏が1926年に、宮尾厚氏が1928年に、それぞれの責任者となり、日本力行会から送られてくるおよそ400人もの青年の面倒をみました。

なかには過酷な状況に耐えられず、

サンパウロ市へ出てきて、コンデ街の遠藤常八郎氏、ジャグアレの加藤保松氏、リベイロン・ピーレスの野上豊氏らの御厄介になる会員もいました。

全ブラジルを一丸とするブラジル力行会が成立するきっかけとなったのは、終戦後のアルモニア学生寮の建設からです。それまでは、同じ釜の飯を食った仲間の親睦会が散発的に開かれる程度でした。

1945年9月7日、戦後初めてのブラジル力行会総会が、サンパウロ市ピニェイロスの聖公会で開かれ、それから毎年開催されるようになりました。アルモニア学生寮の建設が決議されたのは、1946年の総会でしたが、日系社会における勝ち組負け組の抗争が激しく、日本人の集会を開くのは非常に危険な時期でした。

敗戦により海外にいた軍人と民間人500万人が一度に引き揚げる、未曾有の危機のなかの日本。帰国の夢が断たれた移民は、ブラジルを定住の土地と決め、自分の骨をこの大地に埋めることを覚悟し、子供たちの将来のために

教育を第一義とすることを悟ることでした。

1947年の総会で学生寮建設委員会が発足、翌年の1948年にサンベルナルド・ド・カンボスに1万7千mの土地を購入し、1953年、「和」を掲げたアルモニア学生寮が落成しました。

当時は移住者の経済的基盤はまだ不安定な時期で、建設資金の募金運動は簡単ではなく、井原恵作、輪湖俊午郎、野上豊、二木秀人、破魔六郎、村上真市郎、森晋平、本田慶三郎氏ら力行会リーダーの心労は言葉で言い尽くせないものでした。

日系人初の州高等裁判所の判事となった渡辺和夫法学博士も、大学進学前にアルモニア学生寮で勉学に励んだ人のひとりです。2013年に創立60周年を祝ったアルモニア教育文化協会が経営するアルモニア学園は、400人の学生をかかえ、ブラジル地域社会とかわりをもちながら、日本文化の継承を試みる認知度の高い学校として注目を集めています。

4月21日(金曜日) ニッケイ新聞

その4

アルモニア学生寮建設と同じころ、ブラジル力行会は、4日クラブ運動にも積極的に参加しました。4日とは、英語で、腕、頭、心、健康の頭文字を取ったもので、アメリカで4日運動を学んだ永田稠会長が、ブラジルに導入しました。

永田会長は1951年7月からおよそ7ヵ月間、100回にわたって地方巡回公演を行ないました。この4日運動は、ブラジル力行会だけではなく、サンパウロ総領事館、コチア・南伯両産業組合など、日系団体の幅広い賛同と支援を得て、農村青年教育運動が進められました。

ブラジル力行会の会長は、井原恵作、破魔六郎、村上真市郎、森晋平、山内安房の諸氏が続いて、アルモニア学生寮建設と4日クラブ運動という、ブラジル力行会の大きな事業が一段落するころ、ブラジル力行会も他の日本人会と同じように、会員の減少と高齢化が急激に進みます。

1969年にブラジル力行会の会長に就

任した林寿雄氏、続いて永田久氏、そして現在の岡崎祐三氏は、真正面からこの問題に取り組むことになります。

日本の高度経済成長により1960年ごろから新しい移住者の来伯が見込めなくなって以来、会員子弟の日本への研修生派遣事業を、今後のブラジル力行会の重要な事業と位置づけることにしました。

最初は、ブラジルの大学で学ぶ会員子弟に学費を補助する奨学生制度。続いて、日本力行会を通じて、日本の企業に技術研修生を派遣する事業。そして現在まで続いている日本力行会の力行幼稚園研修制度と日本語を習得するための南米開拓講習制度です。

1970年から始まった種々の派遣により、ブラジル力行会は日本力行会の支援を得て、今日まで、152人の研修生を日本へ送りました。

2016年8月、リオで南米初のオリンピックが開かれました。開会式には、生命の誕生から現在までのブラジルの歴史が表現されました。演出の進行に伴い、白い布に日の丸が施された衣装

をまとった日本人移民が現れて多民族国家のブラジルを表現し、テレビを通じて、世界中が、国内人口の1%にも満たない日系人の存在を知ることとなりました。

中国のメディアまでも「豪華絢爛な演出にブラジルの歴史、文化、社会が盛り込まれた開会式において、非常に明らかな日本のエッセンスが表現された。一世紀におよぶ大量の移民により、現在ブラジルは世界で最も日系人の多い国となっている。ブラジルと日本との関係が深いのは、無知で愚昧な中国の清朝政府が、ブラジルという国を知らなかったからだ」と日伯間の深い繋がり驚きをみせました。

他の国が羨むほどの、日本人移民がおおよそ110年かかって築いた貴重な財産を、今後どのように生かしていくか。試練の節目にある、日伯交流の一端を担うブラジル力行会の研修生派遣事業は、その重要性が増していくようです。

(終わり)

4月25日(火曜日) ニッケイ新聞

夜間19期生の見た日本力行会

(力行会評議員) 橋 正克

「そもそも我らの一生は、進むを知りて退かぬ……」と力行奮闘の歌を私達講習生7名全員が合唱。永田稠先生の講義が始まります。テキストは南米に関する小冊子で、旧かなづかいでしたから読みづらいものでした。「亜米利加」はなんとか「アメリカ」と判読できても、布哇、伯刺西爾、亜爾然丁^(注)となると漢字が読めなくて閉口しました。

講話の中で必ず登場する人物は、島貫先生と輪湖俊午郎氏と北原地価造です。キリスト教信者の島貫先生から在米中に2代目力行会会長を命ぜられたことや、「力行会へは独立自尊の念なき者は来るべからず」とか、心の救済と実生活の支援が必要であることを説明されました。

南米の話になると、「輪湖くんが大変な努力をしてくれた」とくりくりした目を輝かせて語る和服姿の先生に傾聴。当時、先生は88才で米寿のお祝いを行いました。足が少し不自由でしたが、ガッチリした体格でいかにもかつて日露戦争で陸軍少尉として従軍された面影がありました。

アリアンサ移住地の建設をやりとげるにあたり、神への祈りをささげたことを何度も力説され「神に祈れば実現する」と。「アリアンサは輪湖君が名付け親で「協力」の意義があり、結婚指輪のことだ」とも述べられました。

日本力行会って何だろう？と思うことが時々あります。キリスト教をベースに島貫先生の「霊肉救済」であり、アリアンサ移住地が窮地に陥った時、

永田先生が力行会員を励ますために語った「珈琲より人を作れ」の精神が脈々と受け継がれてきた歴史だと思います。

時は流れ、およそ50年後に力行祭に参加し、賛美歌「いつくしみ深き友なるイエスは、罪とが憂いを取り去りたもう…」を口ずさむうちに自然と涙があふれて…。

木造2階建ての古びた宿舎で過ごしたわずか一年間のことでしたが、今も尚、力行会の思い出が一本の細い糸につながって生きづいていたとは思ひもありませんでした。

(注) 左から「ハワイ」「ブラジル」「アルゼンチン」と読みます。

伯国観光ビザを48時間で 日本人ら4カ国、年末開始

ニッケイ新聞

2017年4月13日(木曜日)

マルクス・ベルトン観光大臣は11日、日本、米国、カナダ、オーストラリアの4カ国に対し、ブラジルの観光ビザをインターネットサイトやアプリケーションで取得することを、年内に可能にすると発表した。11日付け伯字ニュースサイトが報じている。

これは観光振興策「ブラジル+ツーリズム」の目玉の一つとして発表された。電子ビザはネット上の申請からわ

ずか48時間で、審査や手数料支払いなどを経て発行される。伯国は現在、全ての観光客に対し、共通の基準にならない同様の審査を行っている。今回発表された4カ国は高い購買力を持つ観光客を持つ国とされている。

また、電子ビザの発給について「ビザ取得を楽にすることで、世界の観光マーケットにおける伯国の競争力を高められる」とし、「この電子ビザで観

光産業を拡大し、各地に雇用や収入を生み出す」と期待した。

連邦政府広報サイト「ポータル・ブラジル」によれば《現在、中国、インドにも同様の対処をする検討をしているところ》とのこと。

同振興策には、国内の航空会社の新規上場、外資系航空会社の伯国内でのフライトを可能にすることも含まれている。

学校法人 **りっこう幼稚園だより****豆まき**

ももぐみ 鈴木 優菜

2月3日の節分に、豆まきを行いました。当日までに、お面や金棒を準備する子どもたち。ももぐみのお部屋からは、「豆まき」の歌が鳴り響きます。「ももぐみの時は泣いちゃったから今年は泣かない」と決心するすみれぐみさん。「どうやったら鬼を倒せるのかな」と作戦会議をするゆりぐみさん。ソワソワ、ドキドキ、ちょっぴり楽しみな気持ちで当日を迎えました。玄関には、柊鰯を飾り、クラスでは、お豆を歳の年だけ食べました。「良い匂いがする!」「カリカリしてて美味しい!」とみんなで食べると楽しい温かいひとときでした。そんな時間はあっという間。全園児が園庭に集まり、み

んなで「鬼は外、福は内」と豆を投げました。「エイエイオー!」と掛け声を言い、準備万端な子どもたち。正門から鬼が登場し、豆を握りしめながら立ち向かう姿、初めてのももぐみさんは、なかなか豆を投げる事が出来ず先生と一緒に鬼退治をする姿、自分で作ったお面や金棒で退治しようとする姿、たくさんの子どもの様子がありました。鬼を追い払う元気な声が園庭に響きました。みんなで鬼を退治し、「バンザーイ!」と泣いてしまった子どもも笑顔になり自分の心の中にある、怒りんぼう鬼や泣きむし鬼など悪い鬼をやっつけることが出来ました。豆まきを通して、子どもたちの心と体が健康で大きくすくすく成長することを願っています。

**音楽会**

ももぐみ 柳田 恭子

2月10日に音楽会を行いました。日々の保育の中で歌っている歌と讃美歌を各学年歌いました。又、ももぐみはカスタネットを使つてのリズムあそびやまねっこあそび。すみれぐみはカスタネット、すず、木琴、ピアノ、ゆりぐみはそこに更に打楽器、指揮者も加わり、発達段階に合わせて活動してきました。

「お客さん来てくれるかな?」「楽し

みだね!」と当日胸に付ける自分たちで作ったリボンを鏡の前で当て、友だちと気持ちを膨ませいく姿もあり心待ちにしている様子が伺えました。

当日、礼拝堂にはたくさんのお客さんで舞台に立つとちょっぴり緊張気味な表情や嬉しそうな表情の子どもたち。ももぐみ

は顔を真っ赤にして大きな口で歌ったり、身体を揺らしてリズムあそびをし



たりと微笑ましい姿があり、表現を楽しんでいました。すみれぐみは友だちとリズムを合わせることを心地良く感じ、1つひとつに練習の積み重ねを感じました。ゆりぐみは、真剣な眼差

しで歌う立派な姿に三年間の成長がなくなり、心が揺さぶられるものでした。どの学年も会場から大きな拍手とアンコールが止まず、お家の方と一体感があつたあたたかい音楽会でした。

神様の見守りの中、友だちと心をつにして音を奏でる喜びを味わえたことは大きな歩みに繋がったと思います。

おもいで遠足

ゆりぐみ 馬上 朝子

2月27日、大型バスに乗りおもいで遠足に出掛け、サーカスを鑑賞しました。

「サーカスに行くんだよね!」「ライオン出てくるかな?」「空中ブランコ見たいな!」と心待ちにしていた子どもたち。

大きなテントの中に入るとワクワク

の表情で目を輝かせ、「これで空中ブランコするんじゃない?」「あそこに人がいる!」と今から何が始まるかあちらこちらを注意深く観察する姿も見られました。

いよいよ開演すると、ピエロのしぐさに笑い、ジャグリングや綱渡りに大きな拍手を送り、様々な動物が出てくる度に大いに盛り上がりました。そして、子どもたちが一番楽しみにしていた空中ブランコでは、祈るように手を

組み、固唾を呑んで見守り、応援しました。見事成功すると、友だちと安心した表情で顔を見合わせ、大きな拍手を送りました。「空中ブランコすごかったよね」「ピエロが落ちちゃったよね」「ホワイトライオン大きかったよね」「ゾウがすごかったよ!」と友だちと振り返る姿から、友だちと共有できる幼稚園の思い出がまたひとつ出来たことをうれしく思いました。

卒園式

ゆりぐみ 中村 瑞穂

3月18日澄み渡る青空の下、新園舎での初めての卒園式が行われました。礼拝堂に入場する子どもたちの姿は緊張しながらも、どこか自信に満ち溢れた表情でした。おうちの方と手をつないで入場した入園式から三年。本当に大きく成長しました。尾山牧師のお祈りから始まり、園歌、園讃美歌を歌い、証書授与へ。123名一人ひとりが堂々と舞台上がり、園長先生から証書を受け取る姿に胸が熱くなる思いでいっぱいでした。すみれぐみからゆりぐみとの思い出をのせた『みんなともだち』を歌ってくれて、ゆりぐみも優しくし

てね!守ってね!と思いを交わし合いました。ゆりぐみからのお別れの言葉、『はじめの一步』の歌とともにおうちの方に、みんなで考えた三年間の感謝の気持ちを届けました。「美味しいお弁当をありがとう」「送り迎えをしてくれてありがとう」「いつも応援してくれてありがとう」…と会場は言葉だけでは表せないあたたかい式となりました。

りっこう幼稚園でたくさん遊んで、泣いて、けんかして、仲直りを

して、大きくなった子どもたち。これからもたくさんの人に愛されて、一人ひとりがそれぞれの歩幅で、ゆっくりとたくましく歩んでいくことを心より願っています。



力行会館の冬季恒例行事

会館生スキー旅行

毎年恒例となった「会館生スキー旅行」を今年も3月11日～12日に開催致しました。

入退館が重なるこの時期、参加人数が危ぶまれる中29名の参加がありました。退館され学校の近くに引越しをされた元会館生や日本語のボランティアの方などスキーの魅力に取り付かれたメンバーも数人参加して頂きました。

当日は心配された遅刻もなく、予定の朝8時に会館前からバスに乗車出発することが出来ました。今回の旅行の目玉として国宝の「松本城」見学をスケジュールに組み込みました。中央高速を利用して松本経由で軽井沢までの道のり、週末の土曜日ということもあり若干不安もありましたが、渋滞もなく予定していた時間通りに到着することが出来ました。

昼食を諏訪インター近くの「おぎのや」で定番の「峠の釜飯」を食べ松本城へ。

松本城ではポルトガル語、スペイン

語、英語の無料ガイドが付いてくれました。各グループに分かれて場内を見学、木造づくりの現存天守12のひとつで他の国では見られない城ではないかと思えます。見学が終わってもガイドと記念写真を撮ったり話し込んでいる姿を見て、この企画や長時間のバス乗車を心配していましたが癒されました。

予定の時間にベルデ軽井沢に到着。各自部屋に荷物を置き、スキー、貸しウェアのサイズ合わせを行い夕食まで自由な時間を過ごして頂きました。夕食は和洋中のバイキング。それぞれが好きな料理を選べるこのスタイル、まさに当会の旅行には最適なスタイルと感動しました。

夕食後、体育館でバスケットボール、バトミントン、卓球で交流を図りました。私も年齢を忘れバスケット、卓球でムキになり若者たちと汗を流しました。何年ぶりだろう!!

汗を流すのに大浴場に行くと、彼ら

も汗を流すのに入ってきました。初めて他国の人との裸の付き合い、のぼせるまで入ることになりました?

翌日、アサマ2000スキー場にて待望のスキー、スノーボード。スキーの初心者、経験者、スノーボードのグループに分かれインストラクターによるレッスンを午前中2時間行いました。昼食後フリー滑走となり様子を見るため巡回しましたが、初めてとは思えないほど転ばずに滑っているのには驚きました。途中で辞めることなく時間いっぱいまで楽しんでいました。昨年同様スタッフ以外の参加者が怪我をすることなく終れたのが何よりでした。

帰りのバスの中で、来年は初日からスキーを滑りたいとの要望が2～3人からありました。

このツアーは練馬区の後援があるからこそ開催出来ることを感謝したいとおもいます。

(中島)



力行会館新入館生 ウェルカムパーティ開催



今春、男性33名、女性40名の留学生を迎え、新年度が始まりました。

内訳は37名の短期留学生と36名の長期留学生をお迎えしスタートすることが出来ました。

例年、半年の短期留学生が半数近くを占めますので、4月と10月に、ウェルカムパーティを実施しています。今回は4月6日に実施致しました。

3月下旬から参加の有無を打診したところ日本語ボランティアの2名を含め54名の希望があり、職員6名を加え60名以上になることが予想されましたので、予定していた会場を日本館食堂から国際館地下ホールに移動すること

にしました。

デリバリーでの会食を予定していましたが、人数の多さからカレーでの会食に切り替えることにしました。管理人ご夫妻と研修生2名にお手伝いだき、会場設営から配膳まで混乱なく進めることが出来ました。

はじめに力行会を代表して事務局長の伊藤より英語での開会のあいさつを頂き、つづいて田中課長より職員の紹介があり乾杯に移りました。マレー語から始まり中国語、タイ語、ベトナム語、英語、スペイン語、ポルトガル語と各国語の「乾杯」の後、日本語の「かんばん〜い!!」で会食が始まりました。

カレー、鶏の唐揚げ、サラダ、四川風麻婆豆腐、各種飲料水（アルコールなし）で食事をしながら友好を深めました。その後、自己紹介とゲームを行いさらに親睦を図りました。特にゲームの「ジャンケン列車」では慣れないジャンケンに笑い声と歓声がホールに響き渡り想像していた以上の盛り上がりを見せ盛会のうちに終了することが出来ました。

会館生にとっては、これから半年又は1年勉強に忙しくなりますが、当会館での出会いを機会に友好を深め楽しい留学生活が送れるよう当会もサポートしていきたいと思います。（中島）





剣道体験会



2月25日(土)に、昨年もお世話になりました練馬剣友会さんにご指導をお願いし、「剣道体験会」を開催致しました。

当日は、日本語ボランティアでお世話になっている大矢先生に引率をお願いし、台湾、中国、ブラジル出身の会館生が体験させて頂きました。

急なお願いにも関わらず、理事長、会長はじめ、会員の皆様に、大変、丁寧なご対応を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

誌面にて、お礼を伝えさせて頂きます。また、皆様の益々のご活躍をお祈

り申し上げます。今後共、暖かいご支援の程、お願い申し上げます。

最後になりましたが、ブラジル出身の会館生・原 タイス さおりさんより感想を寄せて頂きましたので、ご紹介させて頂きます。

今回は初めて剣道を体験させて頂きました。

歴史などに興味があり、偉人が使っていた刀などを調べたりするのが好きだったので作法や立ち姿などきちんと教わりながら体験させて頂いてうれしかったです。

剣舞も間近で見るのも初めてだったので思わず見入ってしまいました。竹刀を持つのも初めてで新聞紙での試し切り、最初はなかなかうまく真つすぐに切ることができませんでしたが回数を重ねてだんだん上手くなれたことはうれしかったです。

「面!」「胴!」「小手!」大きい声で叫ぶのは少し恥ずかしさがありましたが終わった後はすっきりした気持ちで終えました。貴重な体験ができてよかったです。



平成28年度 ブラジル研修生報告

一年を通して〰〰

原タイスさおり

私は去年の一月に日本にやってきてりっこう幼稚園の研修が二月に始まりました。子供たち一人ひとり向き合うのは大変で最初の話をするところから苦戦しました。自分は本当にこんなで先生になろうと思っていたのかとかいろいろ考えましたが、一年を通して考え方や接し方など覚えていき子供たちとの関わりを楽しさを感じました。

自分の中でも一番の衝撃は子供たちと毎日一緒にいることで自分の不得意だったものが得意なものへと変わることでした。やったことのないこままわしも子供と一緒にやって練習することできるようになり、鉄棒も子供に負

けじ毎日一緒になって練習していると逆上がり空中逆上がりまでできるようになったり、あまり知ることのなかったあやとりやおりがみも教えてもらったりしてレパートリーが増え、子供と一緒にやることによってお互いに成長をしているように私は思いました。

毎日過ごしていてごくたまにうまくいかない日があってつらくなったり本当は自分には向いてない仕事なんじゃないのかなって思ったりもしました。だけど笑顔いっぱい笑いっぱいの子供たちと過ごしているとそういう気持ちも消え去ったりして気づいたら一緒に楽しくなっていて「やっぱ

楽しいな」って感じました。

五年前の日本からブラジルへ帰国してから四年半は殻に閉じこもりなかなか成長できなかったです。だけど、この研修に会い、こうして日本に来て日本の幼稚園のお仕事を覚え子供たちと関わり子供について知った自分にとっては本当に糧となる一年になったと思ってます。空っぽだった私でしたが、幼稚園の先生方や子供たちのおかげで自分の将来のための一歩が踏めたんだなと思ってます。

十二月で研修は終わり、一月帰国と決まてましたがたくさん悩み帰国をとりやめもう一年、この幼稚園にお世話になりながら自分の将来への道を開いていきたいなと思ってます。そして、自分を活かして精一杯頑張りたいと思います。

新明チェリーの感想文

新明チェリー

だれもが日本の教育は素晴らしいと言っていました。りっこう幼稚園もすばらしかったです。りっこう幼稚園に着いたら新しい幼稚園ができたばかりでした。見たことない建物、本当に素晴らしい幼稚園でした。クラスやグラウンドが広くて子供や大人でも遊べる

場所でした。ブラジルにはピアノを弾ける先生は少ないです、日本の幼稚園には毎日必要です。毎日、楽しい歌や子供たちを喜ばせる為に弾けないといけません。りっこう幼稚園の先生たちはみんなキレイでやさしい。子供たちは本当に先生のことが大好きでみんな

アイドルみたいでした。この一年間全部のクラスと遊んで（もも組・すみれ組・ゆり組）たくさん大切な思い出を作りました。一番大切なことは先生が子供たちと一緒に遊ぶ事だと思いました。この一年間幼稚園、力行会、留学生の皆様ののおかげで色々な事を学びました。とても感謝してます。これから一生懸命日本語を学んでブラジルのせいとたちに教えていきたいです。

平成29年度 幼稚園教育研修生 ブラジルより来目

ブラジル力行会要請の日本文化習慣等を修得する事を目的とした幼稚園教育研修生2名が、予定通りブラジルより来日した。

彼等幼稚園教育研修生は、これから

当りっこう幼稚園での実地研修を1年間行うこととなっている。

これからの研修が彼等にとって大きな実りとなるよう期待したい。

(平成29年度幼稚園教育研修生メンバー)

* 梶原 久保美 マルシア

(女性、パラナ州クリチーバ市出身)

* 高垣 留美 マヤラ

(女性、サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス市出身)



日本力行会の皆様へ

毎年、美しいカレンダーを送って戴きありがとうございます。富士のカラー写真を楽しみに切り取って残しております。

日本の方は今年は大変な雪だそうですが、此方ブラジルは連日の雨。各地に洪水騒ぎ、近年は地球温暖化の影響もあるのでしょう。

二〇一七年はどんな年になりますか、アメリカも新しく大統領も代わり、地球全体を眺めてみようと何となく胸騒ぎのする年の様な気がします。

私共夫婦も戦後移民が再開され主人は独身青年の二回目に渡伯しております。

私は力行会花嫁移民のはしりとして五十九年にブラジルへ来ました。もう此の年になりますと戦後移民の生き残り組です。世の中予

想もしない出来事が次々と起きており便利な時代とは言え、昔のランプ生活も懐かしい思い出となりました。

どうか今後も日本力行会続きます事を願っております。

今年は力行会創立百二十年、ブラジル力行会は百年を迎えます。職員の皆様方も健康第一に頑張ってくださいませ様に。私も85才になりました。

(ブラジル会員) 佐瀬 妙子



87歳の誕生日(昨年8月12日)
息子と孫たちと 次男と末娘たちと

半年に留学生として、来日した理由は勉強するだけではなくて、新しい経験を作るためです。日本に住んでいて、日本は綺麗で安全な国で、空気も良くて、日本人も優しいという印象を受けました。そして、日本ではどこへも電車で行けるので、色々な場所によく旅行して、自然旅行することに興味を持つようになりました。一方で、力行会館でたくさんさんのイベントを行われました。例えば、歓迎会や神社のお祭りや忘年会などです。そのおかげで、友達がたくさんできました。日本に居

ても、力行会館で色々な外国国籍の友達が作られて、その友達が言語を教えてくださいました。それは一つの素晴らしい経験だと思います。したがって、私にとって5ヶ月間日本での暮らしは充実した毎日で、貴重な思い出が一杯出来たので、日本は私の第二の故郷のようになりました。またいつか日本に戻りたいと思います。

早稲田大学AIMSプログラム留学生

Pichapornさん (Fromタイ)

2017年2月20日、先日美しいカレンダーをお送り下さってありがとうございました。お手紙を書くのがおくてすみません。実は10日前に私はころんでけがをしましたのです。みな様あけましておめでとうございます。

ごけんこうに気をつけて、どうもごくろう様でした。

キューバ・ハバナ在住会員
眞鍋繁子より

《ブラジル》訪日就労伯人が再び増加=08年以後初の18万人越え =昨年末の在留外国人統計で

2017年4月21日

【既報関連】先月31日に公表された法務省の在留外国人統計によれば、昨年の在日ブラジル人数が、08年のリーマン・ショック以降、初めて増加に転じたことが分かった。昨年12月末時点で18万0923人と久々に18万の台を越えた。8年ぶりに訪日就労者が増加傾向に転じたことが、統計で裏付けられた。底なしの不況下にあるブラジルから、東京五輪景気で求人増の日本へと向かう流れがはっきり示された。

2007年に31万6967人のピークを記録した後には08年のリーマンショックで激減し、15年6月時点で、17万3038人まで減った。16年末は8年ぶりに増加に転じた節目となった。

就労を斡旋する派遣会社イチバンのサンパウロ支店、志波マルシア支店長によれば、「15年比で、昨年は対応件数が3倍以上に膨らんだ」と言う。ブラジル地理統計院によれば、昨年第4四半期の失業率は12%と最低水準に達しており、「特に失業した若年層の熟練労働者がデカセギの多くを占めている」と足元の雇用状況の厳しさを伺わせる。

CIATE(国外就労者情報援護センター)の永井康之専務理事は、「リーマン以降では初めての傾向だが、先行きは不透明だ」と言う。

「90年代は、一人当たりGDPは10倍近く差があったが、今では3倍ほど。人によっては、どちらの国でも給与差はさほど生じず、全ての方にとってデカセギに行くのがよい条件とは言えない」と構造の変化を指摘する。

2月2日の予算委員会で、安倍首相は四世ビザについて「前向きに検討していきたい」との答弁をした。さらに4月10日付け日本経済新聞電子版によれば、経団連の榊原定征会長は記者会見で人手不足への対応を問われ、「日系人に日本で働いてもらう」とコメントした。四世ビザが解禁されれば大きな追い風となり、増加する可能性はありそうだ。

とはいえ、永井専務理事は「このビザが解決されない限りは、基本的にはどんどん減っていく傾向にある」と言い、「ブラジル経済が持ち直せば増加スピードはさらに鈍化していく」と見ている。

昨年末時点での日本における中長期滞在の在留外国人は、合計238万2822人となり、過去最高を更新。国別では、在日ベトナム人が19万9990人となっており、在日ブラジル人数を抜いた。現在の順位は中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナムに次いで、伯国は第5位となっている。

日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立120年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、「世界と日本の架け橋となる人材育成」「海外同胞との連携強化」などの実現を目標に、留学生宿舎・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価値の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。敬具

平成29年5月15日発行
年4回発行(1・4・7・10月号)
発行

(学法)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikkokai@rikkokai.or.jp

ホームページ

http://www.rikkokai.or.jp